

第30期新潟市社会教育委員会議

実施年月日	第4回 平成25年1月21日(月)実施		
会場	市役所 白山浦庁舎1号棟2階会議室	傍聴人	0人
会議内容	1. 開会 2. 報告事項 (1) 第54回全国社会教育研究大会山梨大会参加報告 (2) 平成25年度指定都市社会教育委員連絡協議会について 3. 協議事項 (1) 市民意識調査について 4. その他 5. 閉会		
出席者	<b>【社会教育委員】</b> 宇賀田規恵 川上光子 雲尾周 齊川豊 佐藤貞子 中村恵子 長谷川克弥 長谷川美香 原淳一 <b>【事務局】</b> 三保教育次長 鈴木課長(生涯学習課) 宮本館長(中央公民館) 松原課長(中央図書館企画管理課) 山下課長(中央図書館サービス課) 河内課長(地域と学校ふれあい推進課) 伊藤課長補佐(生涯学習課) 原係長 相崎主査		
会議録			
<b>1. 開会</b> (事務局) 本日、相庭議長より欠席のご連絡をいただいております。新潟市社会教育委員の会議運営規則第3条に基づきまして、本日は雲尾副議長から進行をお願いしたいと思います。それでは、よろしく申し上げます。 (雲尾副議長) よろしく申し上げます。それでは、本日の出席について報告をお願いします。 (事務局) 本日の出席ですが、相庭議長と板垣委員から欠席ということで連絡を受けております。社会教育委員会会議運営規則第9条に定めます、開催に必要な人数を満たしていることを報告いたします。 また、本日の会議につきまして、傍聴の定員を5人として募集しましたが、傍聴の希望はありませんでした。 (雲尾副議長) それでは、2. 報告事項に入ります。(1) 第54回全国社会教育研究大会山梨大会参加報告でございます。資料番号なしの10月25日、26日の参加報告の資料をご覧ください。では、参加された宇賀田委員からお願いします。 (宇賀田委員) 行ってまいりました。まず、全国的に活躍されている甲斐風林火山というじょいそーらんグループの力強い踊りでアトラクションが始まりまして、その後、記念講演、シンポジウム、そして翌日の分科会と大会のほうが進められました。簡単に報告させていただきたいと思います。 まず、記念講演ですが、日本経済新聞社編集委員の藤巻秀樹さんの「21世紀の日本と地域社会」という演題で講演がありまして、新聞記者でいらっしゃると思いますので、世界情勢とか、日本の歴史とか、いろいろ話をされて、それを踏まえたいうえでの日本の地域社会ということでお話しがあったのですが、私は、歴史的なものに非常に疎いものですから、その辺のところなかなか理解できなくて、少しご容赦いただきたいのです。世界の流れの中で日本の立ち位置と現在の置かれている状況を把握し、今後を展望するというので、これからの日本は人口減少が最大の問題ということで、			

### 第30期新潟市社会教育委員会議

特に地方がどう進むべきかということで、空白を埋める部分として、移民の受入、過疎化に立ち向かう地方、少子化への挑戦というようなことが例として紹介されました。下の四角部分にも書きまされたけれども、安全保障の意味でも人口を増やす必要があり、すでに介護、農業、製造の面では、外国人を必要としてきている。そういった、他文化共生生活というのは、外国の方が来てくれば、そこでまた子供たちも生まれるということで、少子化を防ぐ政策にもつながって、特に3. 11の大震災以降は、日本というのは縦社会で、同質社会というようなことも言われているようなのですが、少し見方を変えて、違った文化を取り入れて、日本人もこれから変わるときではないかというようなお話をなさっていました。これかえらの日本は、日本のまちづくりの担い手は、若者、よそ者、変わり者というようなことをお話しなさっていました。

二つ目のシンポジウムですが、今、求められるコミュニティ形成と社会教育のあり方というテーマに基づきまして、下にあります1、2、3のようなことに基づいて、協議されました。コーディネーターの山梨大学大学院教授の栗田真司さんの「山梨の現場で今、何が起きているのか。「地縁のつながり」というものをぜひ見てほしい」という言葉でシンポジウムが始まりまして、えがおつなげて代表理事の曾根原久司さんが、日本の田舎は宝の山ということで、山梨県産の材木を東京丸の内の三菱地所のほうにビジネスとして一生懸命働きかけて、ビジネスにつなげてきたという、最初は自己充足型の社会活動であったのが、農村と都市をつなげるということで、交流の広がりを持って、事業を通して、次第に地域振興型の社会活動になっていったというようなお話がありました。

フードバンクの米山けい子さんからは、フードバンクというのは、皆さんもご存じかと思いますが、どうしても販売できなくなってしまった食品を企業や農家さんから無償で分けていただいて、生活困窮者の方や施設のほうに、また無償で提供するというような活動なのですが、特に命に直結という共感を呼ぶ活動なので、非常に社会的な支援がつながって、広がっているということで、フードバンクが当たり前になっていくような世の中をぜひ作っていききたいのだという、生活支援型の社会活動を紹介されました。

3番目の山梨県ボランティア協会の事務局の岸本知恵さんは、ボランティアさんを集めて何かをするというボランティア団体ではなくて、横のネットワークづくりやボランティア団体や、あるいはボランティアさん同士のレベルアップのための研修を行っているということで、中間支援型の社会活動の紹介をされました。

次の日の分科会、私は「地域の教育力の向上」というところに参加させていただきました。テーマは「活気のある地域社会の創造を目指し主体的に取り組む姿の醸成」ということで、\*のような四つの点に基づいて、協議がされました。

ここでも事例紹介がありまして、千葉県一宮町体育協会の荒木厚雅さんからは、一宮町の体育協会というのは、行政から独立した町民有志により設立された体育協会ということで、町民による町民のための活動を展開している。そこから、いろいろな分野にわたった活動を展開して、生涯スポーツを広め実践することによって、地域コミュニティづくりに貢献してきたというようなお話がありました。

もう一点、山形県南陽市の教育委員会社会教育課、こちらは行政からの紹介だったのですが、「青年教育を考える」ということで、地域とのつながりが薄い20代に限定して、賞金をつけてのコンペティションを開催して、若者の積極的な参加を促して、地域の元気につなげていったというようなお話がありました。

ここで、聖徳大学の先生の斉藤ゆかさんがスーパーバイザーとしてお話をされていましたが、千葉県一宮町も山形県南陽市も、どちらも少子高齢化による人口減少と社会教育全体の元気がなくなっているという地域の課題を抱えての課題であるが、楽しい、夢のある、そういった企画によって人と人とのつながりを深めることができた。両方の事例とも、課題は何ですかという場合に、やはり補助金をぜひ、どうしていったらいいのだろうかというようなことがあったのですけれども、スーパーバイザーの方は、今後は補助金を期待するのではなくて、市外の人を呼び込むなどの、自

### 第30期新潟市社会教育委員会議

分たちで経済効果を考えて、事業継続のための仕組みづくりをしてほしいというようなアドバイスがありました。

大会に参加してということで、少し感想を書かせていただきました。シンポジウム、分科会でのそれぞれの取組におきまして、改めて社会教育、本当にこういうことも社会教育なのか、こういう広め方も社会教育なのかという印象を受けまして、間口が広くて奥行きが深いのだなということを感じました。

寂れる地方都市として、新潟もその対象ではありますが、全国社会教育委員連合会長・大橋謙策氏の主催者あいさつの中で、新潟市の地域教育コーディネーターがすばらしい実践をしているとの紹介もあり、地方都市新潟もがんばっているのだなとうれしく思いました。まだまだ、社会教育に対して不勉強ではありますが、今回の大会に参加させていただき、人と地域にかかわる社会教育の役割の大きさと大切さを学ばせていただきました。社会教育委員として、では何をすればいいのかなということは、まだ少し分からない状態ではありますが、大変いい機会をいただきましたこと、感謝申し上げます。ありがとうございました。

(雲尾副議長)

ただいまのご報告につきまして、質問等ありましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、(2)平成25年度指定都市社会教育委員連絡協議会についてです。事務局より説明をお願いいたします。

#### (資料1について説明)

(雲尾副議長)

まず、これにつきまして、ご質問等ございますでしょうか。質問したからと言って、必ず記録・発表者をしてくれというわけではなく、質問したうえで、ああ無理だなとか、それならやってみようとか。

(長谷川(美)委員)

議題はどのようなことが、通常は話し合われているものなのでしょうか。

(事務局)

これまでは社会教育委員の方たちが話しにくいような議題が選ばれてきていましたので、そうではなくて、今回はできるだけ社会教育委員の中で話し合えるような議題をということで各政令指定都市から募集している最中です。今のところ上がってきているのは、「社会教育施設のあり方」ですとか、「家庭教育と社会教育委員の関わり」とか、そういった議題が上がっているところですが、これから話しやすい2議題程度、事務局と議長、副議長と選んでいきたいと思っています。

(雲尾副議長)

堺市に参加しまして、議論するというよりは、どちらかというと情報交換に近いような形で、例えば、若者支援をどうしていくかみたいなことで、あらかじめ質問して、回答が寄せられてきて、その中から三つくらいのところが代表して答えるみたいな形になっていて、札幌市が答えて、京都市が答えて、広島市が答えてというような形で情報が提供されるというような形で話が進むので、あまり深まりがないといいますか、情報交換だけなら資料を見れば分かるところがありましたので、もう少しきちんと、せっかく集まるのだから議論したほうがいいのではないかと、参加したわれわれの考え方です。

(長谷川(美)委員)

分科会自体は、どれくらい時間を取りますか。3時間のうちの1時間くらいですか。

(雲尾副議長)

半分くらいですかね。

(中村委員)

### 第30期新潟市社会教育委員会議

決め方といいますか、スタンスなのですけれども、せっかく新潟市にあるわけなので、基本的には用事がなければ、全員参加するという方向で、その中で分科会をどちらのほうに出ますかということで、その中で発表者を決めていくという方式を取るのか。とりあえず基本的に、少数性で相庭議長、雲尾副議長、記録という形でいくのかと。その辺はどちらなのですか。

(事務局)

来年度の社会教育委員会議を5回と予定したときには、こちらを1回とすると、その後が苦しくなるといいますか、まず6回分の予算で考えているところなのですが、この第30期社会教育委員会議で「新潟市の生涯学習の方向性」を考えていくときに、そちらのほうにもう少し皆さんの人的なものを集中したほうがいいのではないかと事務局としては考えております。

(雲尾副議長)

社会教育委員連絡協議会というのは、大体議長が出ているわけですが、本年度は来年度新潟市がやるために副議長の私も参加したと。主催市ですので、全社会教育委員が出ていただくのは、それはそれで構わないといいますが、別に構わないかと思うのです。ですから、あいている限りは出ていただきたいけれども、事務局として、それに対して何らかの手当はできかねるという話ですよ。しにくいので出てくれとは頼めないという話ですので、自主的に全員が参加していただけるという話です。

(長谷川(克)委員)

社会教育委員に紹介される外部事業に参加すると、委員会議と同じような手当がつくのでしょうか。

(雲尾副議長)

つかないです。

(長谷川(克)委員)

つかないんですね。では、外部事業に参加するように参加してくださいという依頼でいいのではないのでしょうか。

(雲尾副議長)

社会教育委員として参加していただくという形で。

(長谷川(克)委員)

社会教育委員として参加してくださいと。手当は出ませんよと。それでよろしいのではないのでしょうか。

(雲尾副議長)

これは分科会が二つありますから、片方に7人、片方に1人とかではなく、半々くらいになるといいなという話だと思うのです。

(長谷川(克)委員)

自分の希望のものを選択してくださいという依頼でいかがでしょう。

(雲尾副議長)

ですので、自主的にご参加していただいて、その方々で相談していただきながら、記録と報告をしていただくというような形で考えますか。

(中村委員)

また、具体的な分科会の中身が聞かれてこない、どちらかというのは。

(雲尾副議長)

次の社会教育委員会議のときには、分科会の議題は決まっているのでしょうか。そういうことでございますので、では、次回の3月のこの会議のときに、自主的な分科会の希望を見つけ、大体半々くらいになったなということを見越しながら、その方々の中で記録。記録は、複数でとったほうが正確ですので、複数でとりながら報告をその中の誰かがしていただくような方向で考えるということはいかがでしょう。ということで、ご欠席の委員も2人いますので、合わせると片方に5人くらいはいることになるのでしょうか。そういうことでございます。

### 第30期新潟市社会教育委員会議

それでは、報告事項は以上でよろしいでしょうか。それでは、3番の協議事項でございます。(1) 市民意識調査について、事務局より説明をお願いいたします。

(生涯学習課長)

それでは、市民意識調査の件でご説明させていただきます。先般、皆様方のほうから、項目等に対するご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。その後、2回の小委員会ということで、先生方と開かせていただきまして、まとめましたものを今回、案という形で送らせていただきました。資料2-1、2-2、2-3が生涯学習に関する意識調査ということで、資料になっております。この資料に基づきまして、少しお話しさせていただこうと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

市民意識調査につきましては、市民の生涯学習に関する実態等を調査いたしまして、生涯学習の今後の方向性、それから施策に生かしていくということで調査したいと思っております。ここでは市民の意識の変化の把握、それから生涯学習基本計画の施策の検証、あるいは今後の施策の検討、こういったものに使っていきたいと思っております。

資料2-1を中心にしながら少しお話しをさせていただきますので、ご覧いただければと思います。これが今、案で出ているものの構成図ということになります。大きく三つに分けられております。一つ目と二つ目につきましては、平成20年に行いました調査がベースにはなっておりますが、若干、いろいろ加えたり、削除したりということをやりながら整理をした部分でございます。この部分は「生涯学習推進基本計画」の基本方針の1と2にかかわる部分というようにも理解しております。1番の「生涯学習活動へのかかわり」が計画で言いますところの「現代的課題を中心とした学習の重点化」というところで、そういった形の施策を行う前提となる意識、実態。それから、2のほうの「社会活動へのかかわり」というところが、「学習成果を生かす循環型の生涯学習」それから、「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり」そういった2を中心として、3も含めた形の意識調査の部分ということになっております。

3番目の「生涯学習の推進」、少し大きなくくりにはなっておりますけれども、これは今の施策等への認知度ですとか、あるいは今後の生涯学習施策の要望ですとか、そういった部分が入ってくるところです。それから、皆さんのほうから、広い新潟市の中では、やはり地域性があるのではないかというお話しもちょうだいしていたので、そういった居住地の課題という言い方で、一つ設問を作りまして、地域の課題をどのようにとらえているかということも少し入れた形になっております。それでは、順に追って説明させていただきます。

まず、1番の「生涯学習活動へのかかわり」というところです。これと資料2-3を適宜見ながら聞いていただければと思います。まず、問1になるところが、生涯学習活動の実施状況ということで、どういった活動をしているかという部分になっていきます。ここから始まりまして、問2で生涯学習活動をしていると言った人に対して問4まで設問が続いていきます。している方については問2として、何を目的にやっているか。動機はどうだったかというあたりの設問が入りまして、その後、問3に入りますと生涯学習活動の方法ということで、どういう形で生涯学習活動をしているか。公的な施設の主催するものなのか、民間のものか。あるいは個人でやっているのか、グループでやっているのか。そういった活動の方法を問うような形のものがああります。その後、身につけたものをどのように活かしていますかと、学習成果の活用方法を聞いているところになります。これは、活動ありの人ということでやっている状況、実態、それから目的・動機、そして活動の方法、そしてその生かし方というようにして、これが1から4まで続いてまいります。

今度は活動していない人に対してということで、問1から派生していきますけれども、問5のほうへまいります。学習していない理由。どういった理由で学習をされていませんかというようなところを聞いたうえで、今後は学習意向がありますかということで、問6の中でさらに今後、学習する意向があるという希望ありの方について問7で学習内容を確認し、問8でどういった形の学習の形態を希望するかということのを伺う。これは活動していない人に対する設問の流れになっております。そして、問9でまた再び全員ということで、今後、どういった生涯学習に関する情報を手に

### 第30期新潟市社会教育委員会議

入れたいですかということ、一つ聞いたうえで、最後に生涯学習施策への要望。これで生涯学習活動に関する一連の流れということになります。実態から今後の意向、それから市への要望という大きなくくりになっています。

次に二つ目のくくりのところが、「社会活動へのかかわり」ということになりますけれども、それが問11から始まります。こちら作り方としては、1のほうと同じようになっています。実際にどういう活動をされているか。活動の有無を書いていただくところになります。特にこの中で、学校支援の部分を少し細かく聞くような形にしまして、ここでどういった活動をされているかというあたりを知りたいと思っております。

こちらの参加している、経験があるという方につきましては、問12のほうに進みまして、どういうきっかけで参加したのか。自ら参加されたのか、あるいは誘われて参加したのか。そういったきっかけになる部分を聞いていきたいと思って作っております。そのうえで参加してよかったと思うことがあるかどうか。どういったことがよかったと思うか。活動に対する有益性といいますか、その活動がどのようによかったと思われるかというところを聞いています。これも自分自身のことから、人とかかわりのところ、あるいは社会的なことということで、こういうところでよかったというように感じているというようなことが出てくればよろしいかなと思ひまして、選択肢を入れてあります。

問14になりますと社会活動に参加していないという方に対する質問の流れになっています。問14では、活動に参加をしていない理由を伺ったうえで、問15で今後の意向があるかどうかという形になります。さらに意向のある方について、今度、どのような活動をしてみたいかということで、問16と流れていきます。

そして、最後に問17で、全員の方に、社会活動に参加するうえで大事な要件は何かということで、環境整備、あるいは条件整備といったらよろしいでしょうか。社会活動をするうえで、こういうものが大事だと思っているというあたりを聞いて、2番目のくくりが終わります。

そして、三つ目のところが「生涯学習の推進」ということで作っておりますが、問18は、私どもの施策の認知度ということで、生涯学習に関する施策、たくさんありますので、学習が社会活動につながるというようなところの事業を中心にしながら、あとは私どものほうで少し認知度を知りたいというものを加えた形で選択肢を入れて、どういった事業が周知されているのかを知りたいと考えて作っております。

そして、問19、これは先ほど、申し上げた居住地域の課題ということで、地域の課題解決に向けた社会活動につなげていく、そのための学習機会を提供したり、そういった活動支援をしていくということも社会教育では重点的にやっていますので、市民の方がご自分の地域の課題というものをどのようにとらえていらっしゃるのか。そのあたりを少し聞いてみたらどうかということで、こういう形の設問の一つ作ってみました。

そして、20番としては、市がどういう施策をしたらよろしいかということなのですが、少しこの設問の聞き方でいいかどうか分からないのですが、学習を社会活動につなげていくというようなところを重視して、かなりストレートに聞いています。自分で学んだことを活動に活かすためには、どういうことを市が条件整備していけばよいのかを、まとめて20番目にしています。そして、最後に、どういったご意見をお持ちですかということで、ご自由に書いていただくための自由記述欄を21番に設けて、これで設問が終わるという形になっています。

資料2-1に戻っていただきますと、全員に聞く設問というのが八つくらいでしょうか。21問あるのですが、全員の方から答えていただくというのはそれほど多くはない形になってきております。

そしてあと、フェイスのところなのですが、4番目にあなた自身のこととお伺いしますということで、三つのフェイス項目、本当にシンプルにしました。先回はかなりフェイスの部分で九つくらいいろいろなことを入れていたところではあったのですが、必要な最低限の部分で性別、年齢、居住地というような形にしました。

### 第30期新潟市社会教育委員会議

今、全体で24の設問と一つ付問が入っているところがあるので25になっています。当初は30問程度という話でしたので、不足しているものとか、こういった部分をもう少し聞いたほうがよろしいのではないかというあたりが、またあれば、少しお伺いしたいと思います。私どものほうで一旦、案という形でまとめたものが、この24の設問の調査項目ということになっております。

(雲尾副議長)

ありがとうございました。市民意識調査の構成全体を通しまして、ご意見や質問等がありましたらお願いいたします。

(長谷川(克)委員)

資料の説明をもう少しお願いします。アンケートの事例の中には、平成20年調査の参考比較なのでしょうか、参考の実施先に、県が出てきたり、急に千葉市が出てきたり、小牧市が出てきたり、社会とか、大災害とか、自分のためとか、いろいろ視点での注釈が出ています。いろいろな調査を参考にされているのは理解できますが、例えば、資料2-2も前回、国、県とか、いろいろ比較され、似たような調査がありますよという意味合いだと思うわけですが、同じような質問をされているのは地域性を見るためにしているのかもしれませんが、この辺の棲み分けというか、どのようにこの表示を理解すればいいのかと思うのです。前回のアンケートを見ているわけではないので、それらを含めて、今回は、どういった意図でアンケートをするのかという視点もお聞きしたいと思います。この資料の見方としては、どういう意図で考え、注釈を入れたり、入れなかったりしていて、同じ質問があるのにもかかわらず、また載せているというあたりの意義というか、その辺をもう少しかみ砕いてご説明いただけますか。前のアンケートは見ていなくて、この資料との比較もできないので、よろしくお願いします。

(生涯学習課長)

今、おっしゃったのは、吹き出しでいろいろ入っているところでしょうか。

(長谷川(克)委員)

まず、そこからお願いします。急に富岡市などの地名が出てきたり、市町村に関係なく、全国や県、小牧市とかが出てくるので。

(生涯学習課長)

この部分については、基本的には20年の調査などをベースにしてきたところではあるのですが、少しそれを見ていくと選択肢とか、結果とかどうかと思うところがありまして、今こういう形の中で見たときに、必要な選択肢などがあるのではないかと。それで同じように比較ができればいいと思った国や県を参考にしながら、今回、こういう選択肢を作りましたということで、参考にしたものを吹き出しの中に入れて、残させていただいたということです。これが前回調査とどう違うのかというあたりは、少し細かくて申し上げにくいのですが、一応、H20の調査が入っているところは、H20の調査をベースにしながら、さらに県とか、国も参考にさせてもらってこの選択肢にしましたということで参考にしたものをに入れてあるというところで理解いただければと思います。

(長谷川(克)委員)

政令市の人口や制度のようなものを参考抽出基準にされたのではなく、ただあるものを見たという解釈でいいのですか。全国の同様の資料、すべてを見たわけではないですね。

(生涯学習課長)

そうですね。私どもがこういった形で調査をしたいと思ったときに、多くの市が同様の調査をやっていたので、そういうところから少し参考にさせてもらって、引いてきたものだというところで、特にこの地域のことだからここにということにして参考にしたということよりも、こういう調査をやっていて、私どもと同じような形でやっている調査の中で、参考になるような選択肢があったりしたところを少し持ってきたということです。ですので、確かにいろいろな市が入っているのですが、その市が特に新潟市と似ているとか、そういうことではありません。

(雲尾副議長)

### 第30期新潟市社会教育委員会議

国や県の項目については、その調査と比較はできるけれども、例えば、ほかの市については比較する予定はないわけですね。項目の文言とか、選択肢として適当であるということで入れているというだけですから、その市とは比較するわけではない。国や県とは年数の少しのずれはあるけれども、調査結果を比較すれば、国に比べて新潟市はどうですね、県に比べてどうですねということと言えるかと思えますけれども、他市に比べることはあまりないだろうということです。

(長谷川(克)委員)

あまり気にする必要はないですか。

(雲尾副議長)

どこから出てきたかというだけの話です。

(長谷川(克)委員)

こだわった表現されたのですね。

(中村委員)

構成のところなのですが、生涯学習の推進の問20なのですが、生涯学習活動への施策への要望というのは、1のところのほうに、前は3のところにあったものを前に持ってきたと思うのです。生涯学習活動から社会活動への施策への要望が残ったのですが、でも必ずしも生涯学習にこだわることはなくて、社会活動をよりよくするために施策への要望というようにしてしまえば、位置づけとしては、むしろ2の後ろに入れたほうが、構成上は整合性がとれるのかなという気がしたので、その辺のところはどうなっているのでしょうか。

それと関連して、そうするとこの流れは、生涯学習3のところの構成が「生涯学習の推進」ということになっていますので、自由記述も、例えば生涯学習活動、社会活動についてのということではなくて、などとか含みがあってもいいのかなと。例えば、うちの地域をもっとこのようにしてほしいですよというところで、もっと書きたい人もいらっしゃるかもしれないので、少し幅を持たせた自由記述にしたらどうかという気がしました。

(雲尾副議長)

問20についてと問21についてですね。

(中村委員)

位置づけといいますか、全体の構成図等を見合わせたときにということです。

(生涯学習課長)

やはり問20については、私どものほうでも、学習から活動にというイメージがすごく合ったのですけれども、やはりこうやって並べてくると、先生がおっしゃるように社会活動にということと何らあまり代わりはないかと思っていたところもありまして、それで少しどうしようかというように、同じように悩んでいるところではありました。また、何とかそういった色が出せないかというようなところがあって、無理矢理こういう文言にもなっているのですけれども、これが果たしていい聞き方なのかということも、逆に社会活動に進むうえで流れの中で聞かれたほうが、もしかしたらすんなりと受け入れられることなのかもしれないとは、少し思っているところではあります。

(川上委員)

問16についてお願いします。この問16はこれから活動してみたいという方に対しての問いかけになるかと思うのですが、そのときに項目の6でしょうか。学校支援にかかわる活動というところで、学校支援ボランティア、ふれあいスクールボランティア、セーフティスタッフボランティアというような項目が細かく書いてありますけれども、今現在、かかわっていらっしゃる方は、内容的には知っていらっしゃる。でも、これからかかわってみたいという方に関しては、ただこのように書いてあってもどういうことなのかということで、少し分かりにくいのではないかという思いがするのですが、いかがでしょうか。

(生涯学習課長)

そうですね、確におっしゃるように、今やっている人と対になるような形で作ってしまったところがあるので、おっしゃるように今後というときには、何らかの分かりにくいところがあるかも



しれないですね。

(川上委員)

説明的なものが少しあるといいのかと思いました。

(地域と学校ふれあい推進課長)

今の川上委員のご指摘の部分なのですが、実は、学校支援に関することについては、当課が所管いたしますパートナーシップ事業やふれあいスクール事業が新潟市の大きな施策になっております。実は、さまざまな方々から両事業とも大変いい事業なのだけれども、なかなか一般の市民の方々に十分にお知らせできていないのではないのかとか、また、市民ボランティアの力をさらに協力を得ることが大変重要になる事業なので、ぜひ意識調査をしてはいかがなものかというご意見をちょうだいしております。それは、パートナーシップ事業の推進で、当課が所管いたします運営協議会でも、あるいは自治協議会と教育委員会事務局との懇談会でも各自治会の代表の方々からそういうご意見をちょうだいして、生涯学習に関する市民意識調査に載せるには、少し具体的すぎる部分はあるかと思うのですが、学・社・民の融合による教育の推進が、具体的にどこまで市民に浸透しているかという一つの物差しとして、今回は入れさせていただきたいということで、当課からお願いした経緯がございます。よろしくお願いたします。

(雲尾副議長)

ということで、解説は入れますか、入れませんか。

(生涯学習課長)

認知度のところにもあるので、そこと少し調整して。

(雲尾副議長)

問11と対にはなっているけれども、問11は参加したことがあるかどうかなので、参加したことがあると丸をつけられると。参加したことの無い人は、言葉を知らないのではないかということなわけですね。恐らくその後も図書館のブックスタートボランティアも該当すると思うのですけれども。

(長谷川(克)委員)

言葉で具体的にイメージできる人とできない人がいるということですね。そうするとそのボランティアをやりたいと言っても、イメージできないものをやりたいとは言えないので、補足的に、何かの説明を入れていただけませんか。これはお願いですね。

(雲尾副議長)

学校支援はしたいけれども、何があるか具体的に分からないけれども、6につけるというだけでいいのか。それとも6の後の細分化した、この中のどれをやりたいのかということまで聞きたいのかということになるかと思うのです。

(地域と学校ふれあい推進課長)

これはやはり今、委員の皆様方がご指摘のとおり、どういう事業なのか。ただ、事業を聞いているだけでは分かりませんので、簡単な説明の付記はどうしても必要だろうということは、私どもも考えてはいたところでございますので、なるべくうるさくならない程度に盛り込むことは考えていくべきだろうと思います。

(齊川委員)

まず、1点目が、おもてを見ますとスポーツ関係にも文言が出ているのですが、実際はやってみると、1の生涯学習活動へのかかわりまでは、割とスポーツ関係の文言があるのです。2の社会活動のかかわりとか、そちらへいくと、生涯スポーツに関するかかわりというもの何もないのです。そこは、アンケートでは生涯スポーツまでかかわらなくてもいいと考えていらっしゃるのかどうかということが一つ。

それから、今ほどにもほかの委員さんから質問がありましたが、例えば問11でも、とても詳しく書いてあるところとおおざっぱなところ。つまり文化・芸術とか、健康づくりは何となくイメージできるのです。ずっと読んでいって、子どもの読書活動推進はすごい具体的で、それでいて8番、

### 第30期新潟市社会教育委員会議

生涯学習にかかわるボランティアは何があるのだろうと。答えられないのです。具体性があるところとおおざっぱなところがありますので、注釈と言っても生涯学習にかかわるボランティアというのはいろいろあるものですから、私はやりながらすごく答えづらいなと思ったのです。その辺です。対象は20歳以上の3,000人とあるのですけれども、20歳の方で本当に理解するということが難しいのかと思います。その辺いかがでしょうか。

(生涯学習課長)

今のご指摘のところを少し直していきたいと思います。確かにスポーツの部分をつい健康づくりなどのところと一緒にしてしまったところがありますので、おっしゃるようにスポーツが出てこないというのはある話であります。

先回のところをベースにしてやっていて、先回もスポーツがなかったので、その部分については、そのままに入れてきたところがあります。もう一度、検討していきたいと思います。

(長谷川(克)委員)

議長は、このアンケートの作成にあたり、2回、われわれよりも先にいろいろアドバイスなり、ご意見を述べる立場にあったと思うのですけれども、どの辺に気をつけたとか、先回のアンケートにもかかわっている部分で、継続的にこういったところも見たいという視点などが、多分あられたと思うのです。議長の監修する立場から、どのようなご意見があったのかお聞かせいただけますか。

(雲尾副議長)

先回にかかわっていらっしゃるのは中村委員であるわけですが、どうですか。昨年(平成24年に行った2回の市民意識調査検討委員会)のことは忘れませんか。

(長谷川(美)委員)

このアンケートそのものは毎年、されているわけではないのですよね。

(長谷川(克)委員)

4、5年ぶりですよね。

(雲尾副議長)

5年ぶりですね。その前は10年くらい前でしょうかね。間隔は少し詰めましたけれども。

(長谷川(美)委員)

例えば、問20のところでは社会活動に活かすためにというところなのですが、新潟市が何に力を入れたらよいと思いますかという選択肢が、そのときと同じ選択肢が上がっているというのは、少し変なのかもしれない、もう一步、先に進んだ、例えば、2番だったら、「団体などの活動を紹介する」ではなくて、例えば「マッチングする場を設ける」とか、そのように一步進んだ選択肢が上がっていたほうがよいのかなと思ったので、そのようにお伺いしました。

それと同じように、12番の市民活動支援センターについてなのですが、これも学んだばかりの人たちが、市民活動支援センターを知っているかどうかということがあるので、これも少し注釈があったほうがよいかもしれないと思いました。

(雲尾副議長)

問20の選択肢2番をマッチングのところまで進めてはどうかというお話と、選択肢12番の市民活動支援センターの解説ということですね。

(中村委員)

2番に関しては、8番でそれを何とか。

(長谷川(美)委員)

そうなのですよ、ここのね。

(中村委員)

言葉が少しあれなのですが、同じような言葉を使うといいのでしょうか。上はただ活動を紹介するだけだけれども、下はどちらかというとマッチングとか、いかに協力できるかというところが多分8番でより一步進んだ形でしているのだけれども、言葉が少し違うから全然。

(長谷川(美)委員)

少し印象が違う。

(中村委員)

違ってしまうのでしょうか。その文言を具体的に2のように8番のところを具体的な文言を入れるといいということでしょうか。

(雲尾副議長)

団体どうしになっていますよね。

(長谷川(克)委員)

ここは、先ほどの齊川さんのご指摘と同じで、例えば、12番の市民活動支援センターはけっこう具体的な特定されやすいイメージなのに、上の方の社会活動を行う団体で全部に網掛けされる言葉になっているから、一つ一つ同じように読んでみると何かちぐはぐに感じるんですね。

(長谷川(美)委員)

2番は個人に紹介するという、個人と団体を出会わせるということで、8は活動団体同士がということですよ。

(中村委員)

意味合いとしてはそうですけれども、ただ言葉が伝わるかどうかということは、また別の問題かと思えます。

(長谷川(美)委員)

けっこう読み取る能力が必要ですよ。

(長谷川(克)委員)

社会活動している人たちに特定したアンケートではなくて、無作為の市民対象でアンケートを出すんですよ。

(長谷川(美)委員)

そう3,000人。

(長谷川(克)委員)

多岐にわたる社会活動をしていない人が読んだときに、設問と回答の読み解きができるかどうかの視点ですね。

(中村委員)

昨年出した建議でも、市民活動支援センター、地域を活性化する場だったのでしょうか。やはり各区に置いてほしいという。一応、あそこにあるのだけれども分かりづらいし、各区のところでもある程度使えるような印刷機とかほしいというのは盛り込み済みなのだけれども、そのところを簡単に書いてしまうとこのようになってしまいます。一つの核にはなり得る場所なので、ここは具体的な名前が入ってもいいのかとは思っただけけれども、ただ、イメージしづらいというのはそのとおりだと思います。

(事務局)

こちらの間20も先ほどの吹き出しがなくて申し訳ありません。今回、新規で入れた設問になります。先ほど、中村委員がおっしゃったように29期の社会教育委員の建議を基に、こちらの設問は作ってみました。

(長谷川(克)委員)

先ほど、齊川さんをご指摘された視点は全般的にあって、ざくっとしている項目と、聞きたいところだけ突然具体的なものが入ってくるので、そのところがちぐはぐに感じるんですね。逆に具体的なものを除くとみんな抽象的なので、今度は各々の事業を具体的にイメージできるか、できないかという話になるのでしょうか。全部説明していると吹き出しなどの説明項目が多くなって、アンケートなのか資料なのか、何だか分かりづらくなりますね。その辺の整合性をどう、きれいに作るのかなという気がします。

(原委員)

おもてに生涯学習に関するアンケートがぽんとあるのですけれども、中身を見ると生涯学習活動

### 第30期新潟市社会教育委員会議

と社会活動となっているじゃないですか。生涯学習だけのアンケートかなと思って開いてみると、社会活動のことについてすごく書かれている部分が多いので、生涯学習と社会活動とか、両方ききたいのであれば、両方おもてに出てくればいいのではないかという気がしたのです。生涯学習というと、社会的じゃないことをやっても、要は自分もどうやったら副業でお金が稼げるだろうということも生涯学習かもしれないので、そういったことと、またそういうことを生涯学習と思っている人がいたならば、社会活動のことがぼんと出てくると、何だ世の中のためにやれということかにもなってくると思うので、おもてから出ていたほうが分かりやすいのではないかと。要は生涯学習というのは、社会活動とすごくつながりが強いものですよというような意識を持たせないためにそうしているのかどうか分からないのですけれども、何となくおもてに社会活動ということがもう少し大きく出てきてもいいのではないかという印象を持って見ていました。

(長谷川(克)委員)

アンケートタイトルと項目1番が生涯学習になっているのに、項目2番が脈絡も感じにくい社会活動という設問になっているからですね。

(齊川委員)

もう一点お願いいたします。先ほど新規という話も出たのですけれども、雲尾先生にお聞きしたいのですが、いわゆる質問法というものがある、取るほうが意図的にここに丸をつけてほしいということを出すと、いろいろありますけれども、新規の場合、こういう選択項目というものも、すごく言葉尻といいますか、大切だと思うのです。そういう点で、例えば、問13も新規なのですよ。そして、それをやった場合、1番から7番までの項目までは個人的な、私も答えられると思うのです。ところが8番、9番、自分が参加したことによって「地域に連帯感が深まった」「地域が活性化した」それは言えないだろうと普通思うのです。だから、そういうところです。この項目の文言です。どのように考えるのがいいのか。または、この質問から言えば、8番、9番はなくてもいいのかなと思ったりもするのですけれども、いかがでしょうか。

(生涯学習課長)

基本的には自分のこと、今、齊川委員がおっしゃったように、自分のことと考えているのですけれども、もしかしたらさらにその次のことを考えるような状況もあるのだろうかと思ったところがありまして、入れたのですけれども、確かにおっしゃるようになかなか難しいところではあると思っています。この二つについては、少し事務局で考えます。

(中村委員)

問19なのですが、「地域における課題」というところがありますが、これもやはりいろいろな項目があって、多分、これは地域の課題ということなので、生涯学習とは聞いているけれども、けっこういろいろ学習とか、社会活動などにこだわらない部分のところも挙げられるのかと思うのです。そうしたときに、若者支援というものも必要になってくると思うし、企業がどの程度地域に、例えばお祭りに参加して協力しているとかという、企業がどう関与しているかというあたりのところも一つの課題かなと。それはNPOとか、そういうところも言えることかなという気がするので、そういう文言が必要かなと。選択肢は多くなるのですけれども。

もう一つ思うのは、例えば、いろいろな親の会があるのです。引きこもりとか、不登校とか、障がい者の親の会とか。やはりそういうところに、例えばふれジョブであるとかというようなところが活性化しているというところは、結局は、それが子育て支援だったり、障がい者支援になったりして分散しますが、そのようなものもうまく入れられないかという気がするのですけれども。表現でどうしたらということはなかなか言えないのですが、気持ちとしてはそういうものも必要なのではないかと思えます。そうするといろいろ幅があって、私が思いついたのはそれだけですが、きっとまたほかの人が見られると思いつくものがあるかなという気がしています。

また、北区と秋葉区だと、低所得者の子供たちに対する勉強会というものを実施しているところがあると思うのだけれども、なかなかすべての区でやっていないので、ほかの区でもやってほしいという要望があったりするところもあるかと思うのです。福祉のほうでやっているという形になる

### 第30期新潟市社会教育委員会議

のだけれども、そういったあたりも、区という単位で見たときにいろいろなところでやっていて、けっこう大きいな支援にはなっているかと思うので。そういうものをどう折り合わせるか、先ほどの具体性と抽象性の課題を取るというものもあるのだけれども、ご検討いただければと思います。

(雲尾副議長)

若者支援と企業の関与の2点は分かるのだけれども、3点目は親の会なのか、ふれジョブなのか、どちらですか。

(中村委員)

ふれジョブは親の会が。

(雲尾副議長)

親の会のほうの話ですね、ふれジョブの話ではなくね。就労支援の話ではなくて。

(中村委員)

ふれジョブもくっついてくるというか。

(雲尾副議長)

親の会のほうということですね。

(中村委員)

そうですね、親の会というか、支援する人たちをどう活性化させるか。

(雲尾副議長)

あと低所得者向けのは、東区も西区もやっていますので、半分がたですかね。

(中村委員)

半々くらいでしょうか。秋葉区、北区、西区がやって。

(雲尾副議長)

東区。

(中村委員)

では4区でしょうかね。

(雲尾副議長)

大学のあるところがやるのです。

(中村委員)

ボランティアのね、あとは予算的なものもあるのかなど。

(長谷川(克)委員)

今のお話しを聞いて問19の課題抽出の選択肢に感じるのは、テーマ・カテゴリーの選択項目と組織課題の選択項目が併記している状況になっていることに思えます。これらは、あえて二つに分けて、テーマというかカテゴリーとしての課題抽出と、組織的課題抽出は別に聞かないと、課題抽出の分析が煩雑になりそうですよね。

ここの「住民どうしの地域交流」という選択肢は、地域の課題みたいですが、それに対して「自治会の活性化」というのは組織の課題になっています。課題は、課題として同じようにあるのでしょうかけれども、障がい者といえば障がい者というテーマ・事業に関してということになりますけれども、「障がい者の生活支援」という選択肢だとその事業における組織の問題を指している場合や、テーマ・事業としての問題を指しているのかという、二つの意味合いを含むことになると思います。

設問としては、組織とテーマの課題をまとめて聞いているので、ハードとソフトを一緒に聞いているみたいなので、その辺はもう少し、設問や選択肢などを整理して聞いてあげないと、課題としてあるけれども、このデータをどう捉えるかとなると曖昧になるように思います。実際、似て異なる課題だと思うので、その辺はもう少し選択肢のあり方として、この選択肢をただ縦に増やしていくべきなのか、テーマ的なものと組織的なものの課題を分けた設問もしくは選択肢の枠にするなど、その辺をもう少し整理していただけるよう検討いただきたいと思います。

(宇賀田委員)

問15のところですが、「あなたは今後、社会活動に新たに参加する気持ちはありますか」

### 第30期新潟市社会教育委員会議

というところで、3番の「しようとは思わない」というかなり強い言葉で、行く先が問17の大切だと思ふ条件は何ですかと、これだけで終わってしまっているのですけれども、社会活動に新たに参加する気持ちが、しようとは思わないという、この人たちの意見こそ、もう少し大事なのではないかと。そこをもう少し聞いていく必要はないのでしょうか。問17だけですよね。こういうことがあったらやりますよというところに行くわけなのですよ。なぜしようと思わないのかというところは。

(雲尾副議長)

問17は全員に聞いているので、しようとは思わない人だけ、つまり問15で3をつけた人だけ分類すればどういふ条件があったら参加するかということは出てくるとは思いますが、それ以上にもっと何かを分析してほしいということですかね。

(宇賀田委員)

社会活動をしない理由が何かあるのであれば。

(長谷川(克)委員)

そこに課題が存在するというわけですね。もっと生涯学習を活性化させるためには、その課題をもっと詳細に設問し分析する必要があるのではないかというご意見ですか。

(中村委員)

分析の仕方として、しようと思わない人だけをピックアップして、その人たちがどういうところを選んでいふのかと。そういう分析はできますよね。

(雲尾副議長)

それはできますが、それだけでは不十分で、もっと何か聞いてほしいと。

(中村委員)

どちらかという、気持ちはあるけれどもできない人をどうするかというところに重点を置いたものなのではないでしょうか。しようと思っているけれども、なかなかできないとか、参画もしたいと思っている人たちにどういうところかというところに、多分重点を置いているのだと思うのです。

(長谷川(美)委員)

そうですね。次の施策を打つための一押しを引き出したいためのということですね。

(中村委員)

そういう位置づけなのでしょうね。

(原委員)

問20「生涯学習で学んだことを社会活動に生かすために、新潟市は何に力を入れたらいいと思ひますか」という問なのですからけれども、ここまで生涯学習を社会活動に活かしてくれというふうな雰囲気は、あまりここには感じられないのではないですか。ここまでの設問で、ここを見ると、新潟市は、生涯学習を社会活動に活かしてほしいのだと初めて分かるというか、どこかで新潟市は生涯学習を社会活動に活かしてほしいと考えているということが伝わっていたほうがいいのかなといひますか、ここでいきなり新潟市は、生涯学習は社会活動につなげてほしいのだという意図が初めてちらっと見える感じがするので、そういったことがどこかで打ち出されていてもいいのかなと。新潟市は生涯学習活動を社会活動に活かしてほしいと考えておりますがという前振りがあったりとか、いきなり唐突すぎるのではないかというふうな気がしました。

(佐藤委員)

一つ確認なのですが、問18の12番、これは公民館出前型ふれあいスクールがあるのですけれども、これは出前型講座ではなく、ふれあいスクールなのでしょう。

(宮本中央公民館長)

公民館が学校の空き教室などに出かけていって、地元のお年寄りといった方たちから来てもらって、そこで講座を開設していると。中身的にはそういう内容なのですからけれども。

(佐藤委員)

名称は。

(宮本中央公民館長)

### 第30期新潟市社会教育委員会議

名称はあえて「ふれあい」。

(長谷川(克)委員)

ふれあいスクールでしたっけ。

(地域と学校ふれあい推進課長)

ふれあいスクール担当課としては、笹口小学校さんのほっとハウス笹口という地域型とまた違うのです。

(佐藤委員)

中央公民館の公運審に伺ったときに、出前型講座というようになっていたような気がしまして。

(長谷川(克)委員)

出前講座という言葉がありますよね。あの出前講座はどこで使う言葉なのか理解していませんが、新潟市役所の出前講座とかで、要望があれば、各々いろいろな課で対応しているのもあって、あれも講座と呼んでいましたよね。

(地域と学校ふれあい推進課長)

あれではなく、教育ビジョンにも載っている公民館出前型です。

(佐藤委員)

出前型ふれあいスクールと。

(長谷川(克)委員)

これも専門家同士の言葉で、知らない人は知らないなみたいな選択肢になるわけですね。

(長谷川(美)委員)

行政用語的な感じがしてしまうと。

(地域と学校ふれあい推進課長)

ふれあいスクールに長年、佐藤さんのようにかかわってくださっている方でさえ混同することなのですね。

(生涯学習課長)

ちゃんとした行政の事業名で書こうとすると分かりにくいということがすごくありまして。

(長谷川(克)委員)

ふれあい講座もあるのですよね。要望したどこの水道のやつがいききたいとか、たしかそれはふれあい講座です。出前型。これも具体的なのですよね、ようはね。ここだけが。

(生涯学習課長)

この選択肢は、具体的なものなんですね、ここだけが。

(長谷川(克)委員)

具体的な事業名の選択肢と、そうでない選択肢が混在しているんですね。設問者である皆さんが課題に対して実施している事業は、具体的な事業名称で選択肢に出せるのです。課題だとしても、具体的に事業化されていない課題は具体的な事業名称にはならない。各々選択肢のカテゴリーとして並ぶのだけでも、具体的な事業名と具体的な事業になっていない課題としてのカテゴリーが選択肢として混在している状況になっているので、きっとこの辺が違和感を感じるんですね。

(齊川委員)

逆に言うと、この問18で新潟市の生涯学習に関する施策を知っているものはありますかとあって、17番までしかないのですけれども、新潟市はたった17しかやっていないのかと思われませんか。実際、公民館などはもっといろいろな分野があるだろうし、挙げればすごい数になりすぎてしまうのだろうけれども、たった17かなと。

(生涯学習課長)

それこそたくさんありすぎるので、基本的にどういうところにくるかということで、先ほど少し申し上げた、事業が社会的な活動につながっていくようなものを中心にして、それからどうしてもやはりニーズとして知りたいという事業が若干プラスされているところなのですが、確かに聞き方の中で、生涯学習に関する施策の中でといきなり聞いて、これしか上がっていないという

### 第30期新潟市社会教育委員会議

のは、そのような認識になられる方もいらっしゃるかもしれないということは、少しあります。

(長谷川(克)委員)

このアンケートで、このように聞くことによって、この結果から何が分かって、これが分かると、次のどのような展開に繋がっていくのでしょうか。

(生涯学習課長)

地域と学校ふれあい推進課の部分ですと、どうしてもやはりこの辺の認知度のために。

(地域と学校ふれあい推進課長)

そうですね。当課でお願いした部分については、このような結果を受けて、次のさらに市民の皆さんへの浸透をどのように図っていくかという具体策へつなげていきたいと思っています。

(長谷川(克)委員)

皆さんが実施している代表的な事業の認知度を知るためのアンケートということなんですね。だけれども、代表的な事業だけの提示になっている。その選択肢だけでいいのかという質問になったんですね。

(地域と学校ふれあい推進課長)

今の齊川委員のご指摘でいくと、本当にこれだけではないのです。当然ながら。こちらのニーズと実際にやっていることとの、そこは調べなくてもいい、順調に動いている。でも、ここはぜひ探っていきたいという部分も、こちらの意図が色濃くでていところもあると思うのですが。

(長谷川(克)委員)

自分たちの事業において、認知度として低いのではないか、もしくは認知度として曖昧なので、どのくらい認知されているのか知りたい事業だけ選択肢に羅列されている。そういう解釈ですか。

(地域と学校ふれあい推進課長)

そういう解釈もできます。だから、逆に怖い部分もあるのですけれども。

(長谷川(克)委員)

一生懸命やっているけれども、それが市民生活のうえでどのくらい浸透していて、どのくらい理解しているかということが分からない事業という表現ですかね。

(地域と学校ふれあい推進課長)

そうですね。アンケートをすることで、ここに新潟市の生涯学習に関する「おもな」をつけると少しニュアンスが変わってくるかもしれませんね。おもな施策の中で知っているものはありますかと聞いていく。このアンケートを知ることで、新潟市はこういった事業もしていたのかと。逆に知っていただく機会にもしたいという意図があります。

(長谷川(克)委員)

欲張りですね。広報の意味合いも意図しているんですね。

(地域と学校ふれあい推進課長)

はい。

(中村委員)

それであればその他もつけて。

(三保教育次長)

図書館でのレファレンスサービスについては、あまり知られていないことなので、市民の認知度がどれくらいなのかを知りたいと思っています。そこからスタートしたいという気持ちです。

(雲尾副議長)

ただ括弧書きで調査や研究にと書くと少し敷居が高くなるかなという気もするのですけれども、少し知りたいことでもいいわけですね。

(三保教育次長)

それから、やはりご指摘をいただいて思うのは、スポーツとか、文化というのが、市長部局に行ってしまったので、教育委員会としての認識から少し外れてしまったということがあり、やはり私たちの視野からは抜けているのです。



### 第30期新潟市社会教育委員会議

(生涯学習課長)

確におっしゃるとおりでそうですね。つくくってしまって、健康でくったりとかやってしまうところがあります。

(地域と学校ふれあい推進課長)

少し付け足しをさせていただくと、スポーツに関しましては、今の間18の13番の学校開放事業においては、全市内の小中学校、特別支援学校で、夜を中心に学校開放をさせていただいております。年間130万人もの人が利用して、その9割がスポーツ関係になっていますので、本当にそういう意味では、齊川委員のおっしゃる生涯スポーツには本当に貢献しているというようにとらえています。今、次長がおっしゃったように、いろいろな組織の関係で、ここでは存在がやや薄くなってしまっているということです。

(長谷川(克)委員)

仮に生涯学習の選択肢の中にスポーツを入れてしまえば、ぱっと数字が上がりますよね。それがいいのか悪いのか、あえてそれを見る必要があるのか、ないのか。その辺の考え方が割り切れているかどうかですね。調査をする立場としては。

(雲尾副議長)

社会教育調査でもそれは出ていますので、社会体育を入れると人数が5倍くらいになりますので。

(長谷川(克)委員)

それであれば、冒頭のアンケート説明にはスポーツという単語が記載してあるので、その趣旨も述べ、頭に「スポーツに関しては省かせていただきます」の一言あってもいいのかなと思います。その辺も含めて、原委員がおっしゃっていましたが、アンケートの表題部分の頭のところに社会教育という言葉はどうやって入れるか。どうしたら趣旨の分かりやすいアンケートにするかということだと思います。この頭のところ、新潟市生涯学習市民意識調査というものは、もう決まった文言なのでしょうか。

(生涯学習課長)

そうですね。すでにやってきた調査の名前でもあります。

(長谷川(克)委員)

付帯といいますか、新潟市の社会活動における生涯学習市民意識調査とかという、何か但し書きではないですけれども、そういった文言の変更を検討いただければと思います。

(雲尾副議長)

文書の中には入っているのですよね。スポーツ活動も社会活動も文書の中には書かれているけれども、齊川委員のおっしゃるようには、質問項目の中に、ほとんどスポーツが出てこない。原委員の言うのは、逆に半分がたメインが社会活動なのにアンケートの題名が出てこないのはなぜか。そういう話ですね。

(長谷川(克)委員)

これは学問上のカテゴリーの問題だと思うのですが、議長がご専門とされている社会教育の中では、この社会活動という言葉に並列してスポーツ活動とか、学習文化と書いてあります。全体の枠組みという生涯学習というものが網掛けされているのですけれども、関係図的にはそれで正しいのでしょうか。

(雲尾副議長)

社会活動と生涯学習は、必ずしも重ならない。勝手に社会活動は存在していますけれども、活動自体だから。ただ、その活動のために学んでいる行為自体が生涯学習だと言えば生涯学習になるし。

(長谷川(克)委員)

社会活動における生涯学習と言っても間違いではない。

(雲尾副議長)

社会活動における生涯学習・・・

(長谷川(克)委員)

### 第30期新潟市社会教育委員会議

新潟市民の社会活動における生涯学習というと表現がおかしいですか。

(雲尾副議長)

社会活動だけだと社会活動がベースになってしまいますので、どちらかというそれは逆になりますね。生涯学習活動をベースにして、社会活動を活発にしようということであれば、ベースは生涯学習になりますので。

(長谷川(克)委員)

手段として生涯学習をすると。

(雲尾副議長)

社会活動自体が生涯学習だという言い方もできないことはないのですが、社会活動をするためには学ばなくてはいけないし、活動していることでも学びの一環だといえば、生涯学習を広く定義すれば、被せられないこともないですが。

(長谷川(克)委員)

社会活動のカテゴリーは、いろいろな分野に広がってきているといいますか、文言にもいろいろと広がりを感じています。

(雲尾副議長)

生涯学習活動として、客観的に見るとやっているかもしれないけれども、本人が別に生涯学習だと思っていないこともあるので。ただ別に勉強していないよという人がいっぱいいるわけで。

(中村委員)

説明のところが狙いとしているところと合うようにしてもらえばいいのではないですか。確かにスポーツ活動と社会活動というのは同じ並びになっていると。

(雲尾副議長)

学習や文化、スポーツ活動というのは一括りの枕詞みたいに並べてしまったという部分はあるかもしれませんがね。

(中村委員)

やはり社会活動、生涯学習活動というものを二つのキーワードになっているのだから、そのところがちゃんと分かるような形で書けばいいのではないのでしょうか。

(雲尾副議長)

今の扉に合わせて、スポーツ活動も重点的に聞いていくのか、それとも扉自体を修正して、生涯学習、社会活動の様子と限定してしまうかということでも変えられるということでしょうか。

(原委員)

私の先ほどのイメージだと、生涯学習活動・社会活動みたいなイメージで大きな文字が生涯学習活動と社会活動という感じです。

(雲尾副議長)

生涯学習と社会活動が並列する、中黒点でということですね。

(原委員)

シンプルにそんな感じかなというように思っていたのですがけれども。

(中村委員)

細かいことですが、問6のところは1新たに始めたいというところに番号がついていて、次のところに気持ちはあるがというところに番号がないので、同じように番号を入れる。

(雲尾副議長)

全体的に番号を入れていないほうが多いのです。だから、取ってしまったほうが楽なのです。

(中村委員)

そうするなら、それでもいいと思いますし。あとほかの後ろのところもそうです。同じですね。それから、問16は設問詞に忠実な書き方をしたほうがいいと思うので、「社会活動に」というものを前に持ってきて、鍵のところは「今後参加したい」というように前の設問詞の言葉と鍵の中が一緒になるような形で表現すればいいかと思います。

(雲尾副議長)

問10もですね。

(中村委員)

そうですね。揃えたほうがいい。

(齊川委員)

同様に表記的なところで。

今、小学校の教科書は、横書きの場合は点ではなくて、全角カンマですので、全部点になっていますから、カンマにされたほうがいいのかなど。横書きはみんな全角カンマ。縦書きの場合は点ですけれども。教科書はみんなそうなっていますので。

(生涯学習課長)

新潟市も昔はそうしていたのですけれども、今、点もOKという形になりまして。

(事務局)

どちらかという点のほうに統一というような動きが。

(生涯学習課長)

そういう流れになってしまっています。

(齊川委員)

あともう一つ、せっかく「マナビィ」がありますので、この説明か何かが裏にあったほうがいいのかと思います。

(宇賀田委員)

民間人なものですから、生涯学習に関するアンケートと表書きのところにご協力をお願いしますとか、そういう言葉がなくていいのかなという気がするのですけれども、最後にご協力いただきありがとうございますと言っているのがあるのですけれども少し、そういう言葉がほしいなと思います。

(長谷川(克)委員)

アンケートのお願いなのですよ。

(宇賀田委員)

お願いですよ。

(長谷川(美)委員)

アンケートした結果をどのように返すのかということも、本当は触れるべきですよ。どのようにお知らせを。

(長谷川(克)委員)

アンケートをお願いした皆さんには、ホームページでいつ頃とか、アンケート結果はこのようにお知らせしますというのを見かけることが多いですね。

(雲尾副議長)

では、鏡文にお願いの文言と公表の方法を入れるということですね。電話番号の後に、直通の後に、平日9時・5時くらい入れてもいい気はします。土日にかけて出ないとか文句を言われても。そのほかいかがでしょうか。問19では、いくつか項目を入れてほしいという話と、テーマと組織がばらばらなので、どうにか統一してほしいという話もありました。項目はいくらでも増やしていい、できないこともない。ページに余裕があるのでいくらでも増やせるのですが、三つまでという選択であるので、どれくらい増やすかということと、テーマと組織をランダムに並べていいかどうかということは、また検討するということですかね。問20で力を入れてほしい施策等がほかにもあるようでしたら、出していただいてもいいと思いますし。

(長谷川(美)委員)

問12の設定で、「おもなものの番号に」というのがあって、例えば問17だと、「あなたのお考えに近いものの番号に」とあるのですけれども、この辺は。

(事務局)

どちらかに揃えようかとも思ったのですが、きっかけとか、断定できるようなものはおもなもの

### 第30期新潟市社会教育委員会議

にし、個人の考えを聞くようなものは、あまり断定してしまうとよくないのかなど。少しニュアンスが違っていたのですが、すこしまた事務局で検討させていただきたいと思います。

(中村委員)

確認なのですが、問12は生涯学習から社会活動へというようにするのか、生涯活動を活性化するためにどちらのほうのスタンスでいくのでしょうか。

(雲尾副議長)

問12ですか。

(中村委員)

問20です。

(事務局)

先ほど中村委員が言われたように2章の最後に入れるか、ここに残したままにするかによって。

(中村委員)

1もそれによって変わってくるかもしれないなど。

(事務局)

変わってきますよね。

(中村委員)

生涯学習をベースにしてほしいのですよという意味合いを込めてそのままにしておくのか。

(事務局)

そのようにするなら、問18に、先ほど原委員が言ったような、生涯学習は社会活動のためという前提において、この3章を進めていったほうが良いと思うのですが。

(原委員)

おもての1行目を見ていたら、生涯学習の推進は重要課題の一つに上がっていますがけれども、社会活動の推進は重要課題の一つではないということなのではないでしょうか。それは違うのですね。それは教育委員の管轄ではないのか。

(生涯学習課長)

重要です。

(原委員)

ここも並列しておいたほうが良いのではないかという気がしないでもないのです。

(中村委員)

生涯学習とか、生涯学習活動とは、また少し使い分けているのですかね。

(原委員)

生涯活動、社会活動ですね。生涯学習と社会活動を並列しておいたほうが良いような気がしないでもないですけども。この文言で。そういう問題でもないのですか。1行目。

(生涯学習課長)

少し考えさせてください。私どもも生涯学習活動の次につながる活動として社会活動があるということでは、確かに分けているのですけれども、全体をとらえたときには、生涯学習推進というところでは、学習活動も社会活動も含めているというような認識を持っているところもあるので、少し検討させていただきます。

(雲尾副議長)

生涯学習が盛んな状況で、例えば、公民館の講座がいつも満杯で非常に受講者が増えている。でも、だれも公民館から出ていかないという状況で盛んになったというものを作りたわけではなくて、そのことを基にして、地域で活動している人たちを増やしていくことによって、生涯学習の成果を生かしている場面を作りたということが前提になるので、社会活動を活発にしたいというのは、生涯学習の延長としてという趣旨になるかと思います。

(原委員)

そこまでなかなかつなげて考えられる一般市民がいないのではないかという気がしないでもない

です。

(齊川委員)

今のところをもう一回教えてください。生涯学習と生涯学習活動。文言が二つあるのですけれども、その違いを教えてくださいませんか。問20と問21は生涯学習活動なのです。ほかは生涯学習なのです。その違いが分からないのです。

(中村委員)

このアンケートのいきさつは、生涯学習が大きくあって、その下にキーワードとして生涯学習活動、社会活動という作りですよね。だから、そういう文言で統一されているのですよね。生涯学習、学習市民意識調査になって、三つ目も生涯学習の推進となって、多分そういう作りなのだと思うのですけれども、ただ、違いますと言われて、何と答えるでしょうと言われると。多分、そういう作りは作りなのだけれども。

(長谷川(克)委員)

生涯学習課だからなのでしょう。生涯学習課の中で、生涯学習課の活動をメインにやるということと、社会活動をメインにやるチームで分かれているから、こういう聞き方になってくるのだと思います。学問的なカテゴリーではないでしょう。よく分かりませんが。多分、生涯学習という課があるからでしょう。その中で役割分担が生涯学習活動と社会活動のカテゴリーがあるのではないですか。そうではないのですか。

(生涯学習課長)

そういうわけではないですね。

(長谷川(美)委員)

全部に活動がついていたのですね。

(原委員)

そうですね。

(雲尾副議長)

一番最初に問1の前に、生涯学習活動とはということで定義して、生涯学習活動については定義をしているのですが、生涯学習活動と書いていない、生涯学習と書いているところは、逆に言うと少ないのです。

(中村委員)

全体にかかわるところで生涯学習ですね。一応、社会活動も定義はされるのですよね。

(雲尾副議長)

そうですね。

(中村委員)

生涯学習活動と社会活動について、文言の説明が入っているのですね。

(雲尾副議長)

3で生涯学習の推進についてとなって、ここから生涯学習活動ではなくなっている。

(中村委員)

書いていること全体です。

(雲尾副議長)

おおむねご意見をいただいたと思いますので、今後、これらを基にして修正を図るにしても、今後のこともございますので、一旦、これでアンケートに関する議論を終了いたしまして、事務局からこの後の説明をお願いします。

(当日配布資料について説明)

(長谷川(克)委員)

今回の会議で意見交換をした内容に基づいたアンケート変更案は、しばらくすると送ってくるの

### 第30期新潟市社会教育委員会議

でしょうか。

(雲尾副議長)

来ない。

(長谷川(克)委員)

来ないけど、この会議で話された以外の視点で、意見があれば書いて送付くださいということですね。

(雲尾副議長)

後から思いついたこととかね。

(長谷川(克)委員)

他に思いついたことは書いてくださいということで、会議で交わされた内容については記載しなくっていいわけですね。

(事務局)

はい、これを踏まえて検討します。

(長谷川(克)委員)

一任といいますか、今回の会議での検討事項・指摘内容については、詳細に具体的な文言として修正案まで決めたわけではないので、意見の方向性を確認して、その内容は傾向として網羅されるという解釈でいいですか。

(雲尾副議長)

今日、ご発言された分は議事録に残りますので、そこから起こしますが。

(長谷川(克)委員)

それ以外。

(雲尾副議長)

以外もそうですし、言い足りなかった部分とか、言い換えたい部分とか。やはりこちらのほうがいいとか、そういうことという趣旨です。では、そういうことで、アンケートについてよろしくお願いします。

では、協議事項は一応、終了いたしまして、4番その他でございますが、何か委員の皆様からございますでしょうか。よろしいでしょうか。では、その他も終了いたしまして、進行を事務局にお返しいたします。

(事務局)

大変長時間、活発にご意見、ご審議いただきまして、ありがとうございました。本日の委員の皆さんの貴重なご意見と、また今、事務局のほうから説明があったようにこれからお寄せいただくご意見を参考にさせていただきながら、またよりよい意識調査になるように修正、検討をさせていただきます。

なお、次回の会議は3月21日(木)の午後2時から、会場はまたこちらの会議室になりますので、ご都合をつけてご参加をお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして、第30期社会教育委員会議第4回を終了いたします。ありがとうございました。